

学級新聞などに、しばしば登場する言葉遣いで、気になるものが時おり現れます。今回はそのひとつ「幼さの残る言葉遣い」について、辰濃先生から問題提起です。一緒に考えてみませんか。

「楽しかったです」考

たくさんの学級新聞、学校新聞などを読んでいて、ひっかかる表現があった。

ひとりよがりの感想かもしれないが、気になる表現に「楽しかったです」「うれしかったです」というのがある。

さらによく読むと、「とてもおいしかったです」「とてもつかれたです」「よかったです」「また調べたいです」などなど、数えきれないほどだ。

こういった、幼さの残る表現にどうしてもなじめない。

「とてもつかれたです」は「とてもつかれました」でいいだろう。「がんばりたいです」は「がんばります」でいいのではないかと。「くやしかったです」は「くやしい気持ち(気分)でした」ではどうだろう。「また調べたいです」は「また調べるつもりです」でいいし、「楽しかったです」は「楽しかった」で切ってもおかしくない。

「です」は、体言、体言に準ずる語句に付いて指定の意を表す助動詞だという。

「私は団塊世代です」というときは「団塊世代」という体言のつぎに「です」が付くからおかしくない。しかし「私は朝早く起きるです」はおかしい。「朝早く起きるのが私の習慣です」と言い換えれば、「私の習慣」という体言のつぎに「です」がくるからおおかない。「私はうれしいです」や「私は遊ぶです」などに違和感をおぼえるのは、「うれしい」や「遊ぶ」がいずれも体言ではないからだろう。そこが落ち着かない。

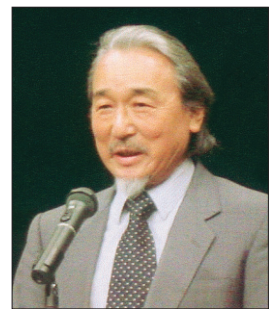
ところが、一部の辞書によれば、「おもしろいです」のように「です」が形容詞に付いた言い方も「現代では正しいと認められている」という。つまり「おもしろいです」「楽しかったです」も、そう目くじらをたてることはないというのがある。辞書の判断らしいが、はたしてそういういきつていいものか。

私はつぎの解釈を支持する。
『岩波講座・日本語⑦文法Ⅱ』のなかで、北原美沙子さんは、「(江戸のころ)『です』は……特に武張った者の対話、医者・芸者の言葉に現れるだけで一般には広く行なわれなかつた」と前置きをしたあとで、こう書く。
『「です」は体言を承けるのが本来であったから、動詞の終止形を直接承けて『私は行くです』のように言わない。また『私は悲しいです』とも普通使えない。しかし『悲しいですね』『面白いですか』のように終助詞のついた形なら用いうる』

ここが言葉のおもしろいところで、「悲しいです」という言い方には違和感があるが、「悲しいですよ」といえばおかしいとは思わない。

日常会話でも、私たちは「疲れて寝込んだやつたわけですよ」「無関心層が多すぎると思っていますよ」などと、かなり自在に「ですよ」「ですね」を使っている。

子どもの作文などで、「楽しかったです」式の表現が多用されていることには、私などのうかがいしれない理由があるのだろうか。私は日本語文法の専門家ではないので、現場の先生方のご意見をぜひうかがいたい。



●たつの・かずお
朝日新聞社入社。ニューヨーク支局長、東京本社社会部次長、編集委員を経て、論説委員。「天声人語」を13年間にわたり執筆。平成6年朝日カルチャーセンター社長を経て、現在著述業。